

が歐米に於て研究された時の紀行など、色々の方面に互つてゐるが、主とする所に従つて、「哲學者の話」と題されたやうである。本書はもとより著者専門の研究の成果を示したものである。むしろ氏としては研究の餘力を以て、時々の感興をそのまま葬つてしまはず、筆紙によつて表現されたものである。従つて、各篇皆さり／＼に著者の多方面に調和的に發展せる人格が明瞭に隨所に顯れてゐる。人生各般の問題に對する著者の豊富な、しかも證明な人生觀が、平明練達なる筆で以て、はつきりと描き出されてゐる。

殊に「サンタンゼロの古城を訪うて」、シヨルダノブ・ルーノが七年間苦しめられ、さいなまれた獄舎を著者が訪はれた紀行文、「ペーコンの收賄事件」を明にした小品、「牛津の哲學者シラー」によつて描寫された今日のイギリスの哲學者の生活、さては「カントの生誕二百年に際して」は著者がカントが生れ、育ち、學び、働き而して死したる東プロイセンの都城ケーニヒスベルヒを訪問された時の感想などは特に本書中でも、我々に教へる所が多いものと感じられた。(高橋)

寄贈雜誌新聞

哲學雜誌	昭和二年十一月號
丁酉倫理會講演集	同 十二月號
教育心理研究	同 十二月號

神學評論	同	十一月號 (イエス研究號)
哲學青年	同	十二月號
生理的研究	同	十一月號
學苑	同	十二月號
東亞之光	同	十二月號
社會學徒	同	十二月號
靜岡縣教育	同	十一月號
帝都教育	同	十一月號
小學校	同	十二月號
學校教育	同	十二月號
信濃教育	同	十二月號
願華	同	十二月號

帝國大學新聞 昭和二年十一月二十一日、二十八日、十二月六日

寄贈圖書

- 一、働くものから見るものへ 西田幾多郎著 岩波書店發行
- 一、教行信證の概要 金子大榮著 岩波書店發行
- 一、復古の玉松操(下)(人物研究叢刊第四) 伊藤武雄著 金鷄學院發行